| 学校番号 | 3001 |
|---|---|

# 令和２年度　家庭科

| 教科 | 家庭 | 科目 | 家庭基礎 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 新家庭基礎　今を学び未来を描き暮らしをつくる（教育図書） | | | | | | |
| 副教材等 | ― | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この科目では、座学、実習、ワークショップ、発表、グループでの話し合いなど様々な形態での学習を通して、体験から気づき、自分のこととして考え、学んだことを自分の生活や生き方に活かせるような実践的な力を養うことを目的としています。知識や技術を身につけるとともに、他者の多様な考え方を学び、自分なりの考えを深めていきましょう。また、周りとのコミュニケーションを図りながら、楽しんで取り組んでいきましょう。

2　学習の到達目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:技能 | d:知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 人の一生と家庭や地域の生活に関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 | 人の一生と家庭や地域の生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。 | 人の一生と家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。 | 人の一生と家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な事項を理解し、知識を身に付けている。 |
| 評価方法 | 振り返りシート<br>ワークシート<br>課題レポート<br>自己評価・相互評価<br>授業への取組態度<br>（授業観察） | 振り返りシート<br>ワークシート<br>課題レポート<br>発表、スピーチ<br>実践課題<br>定期考査<br>授業への取組態度<br>（授業観察） | 技術テスト<br>作品の提出<br>相互評価 | ワークシート<br>課題レポート<br>定期考査 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1学期 | ○オリエンテーション<br><br>○青年期の自立と家族・家庭 | ・家庭基礎を学ぶにあたって<br>＊他己紹介ワーク<br><br>・自分を見つめる<br>・家族・家庭を見つめる<br>＊家族とは＊家族法<br>・人生をデザインする<br>「これからの人生に向かって」 | ○ | ○ | ○ | ○ | a：青年期の生き方や家族・家庭の意義や役割に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。<br>b：人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭と社会の関わりについての課題を見いだし、その解決を目指して、考え、表現している<br>c：事例などを通して、青年期の生き方や家族・家庭の在り方について検討する技術を身に付けている<br>d：人の一生を生涯発達の視点でとらえ、青年期の課題、家族・家庭の意義、社会の関わりなどについて理解し、人の一生を自分の問題として捉えるための知識を身に付けている | 授業観察<br><br>振り返りシート<br><br>ワークシート及び課題レポート<br><br>発表<br><br>定期考査 |
| | ○消費生活 | ・契約の重要性と消費者保護の仕組み<br>＊成人 18 歳<br>＊消費者問題 | ○ | ○ | ○ | ○ | a：消費者の権利と責任、現代の消費生活について考えようとしている。<br>b：消費者問題の被害防止や救済について、まとめたりすることができる。<br>c：消費行動における意思決定や契約、消費者問題について具体的に認識し、消費者として適切な判断ができる力をもっている。<br>d：消費行動における意思決定や消費者問題の原因と被害に遭わないための対策について理解している。 | 授業観察<br><br>振り返りシート<br><br>ワークシート及び課題レポート<br><br>定期考査 |
| | ○衣生活・住生活 | ・被服実習<br>・被服の管理<br>・暮らしを考える | ○ | ○ | ○ | ○ | a：意欲的に実習に取り組み、生活に活かそうとする実践的な態度を身に付けている<br>b：暮らしや衣生活、住生活についての考えを深め、表現している<br>c：主体的に衣生活、住生活を営むために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている<br>d：暮らしの重要性について理解している | 授業観察<br><br>実技テスト<br>実践課題<br>実習<br>定期考査 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1学期 | ○社会とかかわる(○共生○高齢社会含) | ・共に生き、共に支える<br>・社会福祉、高齢社会<br><br>・自分を知る、他者を知る＊コミュニケーションワーク | ○ | ○ | ○ | ○ | a：共生社会における家庭や地域の一員として関心をもち、主体的に行動しようとしている<br>b：共生社会を実現するために、社会の一員として何が出来るか考え、まとめ、表現している<br>c：自分の住んでいる地域や家庭の中で、共生を実現する技術を身につけている<br>d：共生社会の重要性について理解している | 授業観察<br><br>振り返りシート<br><br>定期考査 |
| 2学期 | ○保育（○生活設計 含） | ☆この単元は 2 学期、3 学期にわたって学習する<br><br>・妊娠の不思議と胎児の変化<br>・子どもが育つ力<br>・親として育つ<br>・乳幼児親子らとの交流から学ぶ＜地域連携 親子交流授業＞<br>・社会で子育てを支える<br>・愛されて育つ<br><br>・他者とかかわる力を高める＊コミュニケーションワーク | ○ | ○ | ○ | ○ | a：実践的、体験的な活動を通して、保育に関心をもち、学習に取り組もうとしている<br>b：いのちの尊厳や子どもをうみ育てることの意義、親の役割について考え、まとめたり、発表したりしている<br>c：事例や乳幼児親子との交流を通して、子どもと触れ合い、実際の姿を観察したり、乳幼児の発達や親の役割についてインタビューしたりして、情報を収集・整理することができる<br>d：乳幼児期の愛着の形成や人間形成の基礎となる乳幼児期における親や家庭、社会の役割の重要性を理解している | 授業観察<br>振り返りシート<br><br>ワークシート及び課題レポート<br><br>発表<br><br>グループ活動<br><br>相互評価<br><br>定期考査 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3学期 | ○食生活(環境・生活設計 含) | ・食生活について考える<br>・バランスのよい食事と栄養<br>・食の選択力を高める<br>・心を育む食卓づくり<br>・調理の基礎、配膳、マナー<br>・これからの食、これからの生き方<br><br>＜実生活にて実践＞<br>食育実践2Weeks 実施<br>(朝食及び野菜350gプロジェクト)<br><br>☆調理実習は年間通して行う | ○ | ○ | ○ | ○ | 文科省食に関する指導の手引きより〈食育の視点〉<br>食事の重要性／心身の健康<br>食品選択能力／感謝の心<br>社会性／食文化<br><br>a:食が心身を育むうえで大切なものであることを理解し、意欲的に学習に取り組み、実生活で活かそうとする実践的な態度を身に付けている。<br>b:現在の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解し、それを実践できる能力を身に付けている。<br>c：食に関する各分野の習得すべき基礎的・基本的な技能を身に付けている。<br>d：食事がもたらす役割を理解し、食に関する各分野おいて習得すべき知識や重要な概念を身に付けている。 | 授業観察<br>振り返りシート<br><br>ワークシート及びレポート<br><br>実践課題<br><br>発表<br>ペア活動<br><br>定期考査 |

※学習指導要領記載 10 分の 5 以上を実験・実習に配当し、実践的・体験的な学習を通して学びを深めていく。

※ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動においては、長期休暇や２学期 及び ３学期に行う。

※表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。